

12日目 5月27日(月) 天気 晴れ

ウツタルカーシー→シリュケーシュ ヨーガニケタンへ

AM6:00 起床

AM7:00 朝食

AM8:00 出発

出発前 ホテル サハジヴィラ前にて全員で撮影



お世話になったスタッフにお礼



AM8:15 ホテル「JAHNALLI」の経営者で、ゴームクへ行く時の、テントの用意、ガスボンベ等の許可等をとらなければならないが、このホテルのオーナーさんが、手助けしてくださり、無事許可が下りた、その方にお礼の意味も込めて、訪問。

聞くと、オーナーさんが「是非、寄ってほしい」とおっしゃられたそうです。

オーナーのご両親は、昔は行商をされて、苦勞して財を築かれたそう。

今、その息子さんご夫妻に託されているが、その精神はきちんと息子さんに受け継がれている。お金にならないことでも、一所懸命に奉仕して下さる。

インドではこういう方が多い。

日本では、すぐ、お金のことになってしまうことが多いが。

ここで、皆さん全員に、バラのジュースをいただく。最初は、皆、「何これ水っぽいな!!」など、好き勝手なことを言っていたのに、ここで採れたバラのジュースとわかると、「うーん美味しいね!!」笑ってしまうが、私もその中の1人



お世話になったホテルのオーナーの皆様と撮影



オーナーのお母様は、私と同年、私には 70 才くらいに見えるのだが、それだけ苦勞されたということでしょう、逆に私は、苦勞していないということ？！

お世話になったお礼に、果物をおみやげ。

とにかく、オーナーさんが、とってもいい顔をされておられるのが印象に残った。

そこで働く、従業員の方々もとても、いい顔をされておられる。

やはり、オーナーの精神がここでも、ちゃんと伝わっている。



PM12:00 行きと同じ「チャンバー」にて、お昼とトイレ休憩。おにぎりをいただく。チャイを出してくれる。



PM3:30 リシュケーシュ ヨーガ・ニケタンに到着。

念願のリシュケーシュのヨーガニケタンに到着。

入るにあたって、木村慧心先生より、リシュケーシュのニケタンでは、修行の場なので、気を引き締めて臨むこと、派手な格好をしない等の注意をいただく。

すぐに、静けさに包まれた中、マハラジが今も眠っておられる、墓を、一人一人、入らせていただき、お祈りさせていただく。

なんともいえない、おごそかな雰囲気であり、ピンと張った空気が漂っている。

木村慧心先生も、とても険しく、また、張り付けた雰囲気での祈りでした。

ただ、ただ、ありがたい気持ちでいっぱい。

ニケタンは、建物全体が、そういう感謝の気持ちでいっぱいになるような建物。



厳かな祈りのあと、木村慧心先生が、私が初めてということで、疲れておられるのに、リシュケーシュの街を案内して下さる。

最初に、行きつけ?のレストラン MADRAS CAFE で、ウッタパンと、マサラドーサ、飲み物は、もちろん、リムカをいただく。

ウッタパンはお好み焼きのような感じで、香辛料が適度に効いていて、たれにつけていただく、日本人の味覚にぴったり、あまり美味しく、写真を撮るのも忘れかけてしまった。

店の外観



店内の風景



店内の風景



ドーサと



レジ風景



お腹いっぱいになったところで、街を散策。

とにかく、活気がある。安い。埃だらけ。人であふれている。種類が豊富。
でも、とっても楽しい。



ガンジス川をまたぐ吊り橋をわたって対岸へ。この橋は吊り橋で、ものすごい数の人々
が行き来している、歩くとフワッと揺れる。人もバイクも荷車も、皆、通る。



対岸では、少し雰囲気違って、食べ物を売っているところが多い。

木村慧心先生、ここで、青いマンゴーと、パパイヤを買われる。

とにかく、安い、マンゴーは、6個くらい入って40円、パパイヤは200円

「フレッシュ」といっているのに、売っているおじさんが腐ったようなものを入れる。

「ノー、ノー、フレッシュ」あとで考えると、熟れたほうが美味しかったかも・・・。



巡礼者が泊まる、宿泊所を見学する。



建物を回りて囲って、中には庭があり、安らげるように作られている。

さあ、明日から、気を引き締めて、修行が始まる。

木村慧心先生は、懐かしいニケタンで、どんな思いをされておられるのかと思う。